

○ 長者小校歌の制作に関わりをもった人たち



校歌撰定時の校長
三田 清得



作詞に当って中心的な
役割を果たした近藤 喜衛



作曲者 石橋蔵五郎
律動遊戯の創始・普及者

この校歌は長者村が八戸町に編入になった機会に校風一新をめざして取組んだ①三田校長(前任=轟木小校長)の経営施策の一つとして制作されている。またこの校歌は、三八地方の濃漁村の小学校教員を経験し、庶民の生活の誠実さを実感している教員たちの協力によって制作されている。②作詞に当って中核となった=近藤喜衛(育養小校長

北辰会創設者、東京専門学校文文学科に学ぶ。後に八戸初代市長となる)

③作曲者=石橋蔵五郎(八戸出身=寺井親家と親戚、小

小学校教員経験豊富。日本体育会体操練習所(日体大の前身)、東京音楽学校(選科)等に学ぶ。東京上野学園創設・経営の参画者)

④小学校教員、軍人、新羅神社神官で『長者小校歌の作詞者は近藤喜衛』と語っていた柳川保蔵 ⑤『長者小校歌の作曲者は石橋蔵五郎』と語っていた長者小第4代校長の寺井 親

⑥八戸出身。県立第三(青森)中学校歌(明治35年制作)作詞者で近藤喜衛家と姻戚にある中里忠香=郷土誌『向鶴』の著者。中里は八戸地方の農漁村の小学校教員を経験したのち第二(八戸)中学の教員を務め、明治34年に第三(青森)中学(この年開校)に転勤、翌年三中(青森)校歌作詞、同年萬朝報社募集『処世の歌』作詞(一等賞受賞)。以上の人たちはいずれも長者山新羅神社の近隣に居住、あるいは親戚関係にあつて平民主義に共感している人たちである。

学校沿革 (略)

- ・ 明治9年の類家小学の創立
- ・ 明治12年糠塚小学創立
- ・ 明治31年、類家小学校と糠塚小学校が合併し、高等科併置の長者村立長者尋常高等小学校となる。
- ・ 明治34年、町村合併により八戸町立長者尋常高等小学校と改称。
- ・ 明治42年、高等科を廃止し、高等科生徒を八戸尋常高等小学校へ移籍。八戸町立長者尋常小学校と改称。
- ・ 昭和4年、八戸市制施行により、八戸市立長者尋常小学校と改称。
- ・ 昭和16年、国民学校令により、八戸市立長者国民学校と改称。
- ・ 昭和22年、教育基本法、学校教育法の公布により、八戸市立長者小学校と改称。
- ・ 昭和53年、創立100周年記念式典挙行



校歌を撰定した時期の長者小校舎

長者の山の名とともに

四方にほまれをかがやかせ



長者山新羅神社

長者の山の たかやかに

四民平等、女子への学校教育の開放も下された明治の皇室、第二代藩主直政公が新羅神社を建立されたことへの報恩の気持ちも込めて歌おう、学ぼう。



(写真 東奥日報掲載の複写)

平成14年、校歌撰定100周年記念音楽会で校歌を歌う長者小学校児童